

民主主義と政治参加

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

民主主義の社会で、私たちはどのように政治に参加できるのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 民主主義と政治参加

民主主義

民主主義

国民が主権者として政治を行う考え方。

直接民主制

国民が直接集まって決める方法。

間接民主制

選んだ代表者に政治を任せる方法。

多数決

賛成が多い案を全体の決定とする方法。

民主主義とは、国民が主権者として、政治のあり方を自分たちで決める考え方である。全員が集まって決める**直接民主制**は、人数の多い国では難しい。そのため、多くの国や日本では、選挙で代表者を選び、その代表者が議会で話し合って決める**間接民主制**(代議制、**議会制民主主義**とも)がとられている。ただし日本でも、憲法改正の**国民投票**や地方自治の住民投票など、直接民主制の要素が取り入れられている。

意見が対立したときは、話し合いを重ねたうえで、最終的には**多数決**で決めることが多い。多数決は短い時間で決められる方法だが、少数の意見が無視されるおそれがある。そのため民主主義では、決定の前に少数の意見を十分に聞く**少数意見の尊重**が大切にされる。また、決まったことが誤りだと分かれば、あとから見直せるしくみも必要である。

制度	方法	例
直接民主制	国民が直接決める	住民投票
間接民主制	代表者を選んで任せる	国会・地方議会

2 世論とメディア

世論・メディア

世論

社会の問題についての国民の多数の意見。

マスメディア

新聞・テレビなど大勢に情報を伝える手段。

世論調査

国民の意見を数字で知するための調査。

メディアリテラシー

情報を正しく読み取り活用する力。

社会の問題について、国民の多くがもつ意見を**世論**(せろんとも読む)という。世論は、新聞やテレビ、ラジオなどの**マスメディア**やインターネットを通じて形づくられ、**世論調査**によって数字で示される。政府や政党は世論を意識して政策を決めるため、世論は政治に大きな影響を与える。選挙のほかに、**請願**、署名、デモ、政党やNPOへの参加、SNSでの発信も、政治に声を届ける手段である。

一方で、メディアの報道には、情報の選び方や伝え方に偏りが生じることがある。インターネットやSNSでは、真偽の不確かな情報がすばやく広まり、自分と似た意見ばかりが目に入りやすい面もある。そのため、情報を正しく読み取って自分で判断する**メディアリテラシー**が欠かせない。民主主義を支えるのは、主権者がたしかな情報にもとづいて考え、積極的に政治に参加することである。

問いへの答え

民主主義では、国民が主権者として政治を決める。日本では選挙で選んだ代表者が議会で決める間接民主制を基本とし、多数決を用いながら少数意見を尊重する。国民は選挙のほか、世論や請願などで声を届ける。その際、マスメディアの情報を引きあはせるメディアリテラシーが大切である。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

